

## 令和6年度第4回合同教育研究会議議事概要

### 1 開催日時

令和6年7月10日 13時00分～14時15分

### 2 場所

本部棟3階 特別会議室

### 3 出席者

鈴木学長、高橋副学長兼教育支援本部長兼教学IRセンター長、  
亀田副学長兼研究・地域連携本部長、鈴木副学長兼事務局長、  
三上学生支援本部長、猪股企画本部長、高橋高等教育推進センター長、  
工藤看護学部長、中谷社会福祉学部長、高田ソフトウェア情報学部長、  
Tee 総合政策学部長、川崎盛岡短期大学部長、田中宮古短期大学部長、  
宮本委員（学外委員：岩手大学人文社会科学部教授）、  
永富委員（学外委員：東北大学産学連携機構特任教授）

#### [オブザーバー]

米内事務局次長兼総務室長、加藤教育支援室長、松崎学生支援室長、  
藤村研究・地域連携室長、佐藤企画室長、土澤宮古事務局長

#### [事務局]

高橋総務財務課長、森主幹、伊藤主任主査、

### 4 会議の概要

#### 議事録確認

前回会議6月5日の議事録（議事概要）については、原案のとおり承認された。

#### 審議事項

なし

#### 協議事項

なし

#### 報告事項（口頭報告）

##### (1) 令和5年度の業務実績評価の変更について

亀田大学評価委員長から、資料に基づき説明があった。

##### (2) オハイオ大学、中部大学及び本庄国際奨学財団との復興防災学習プログラムの実施について（報告）

高橋高等教育推進センター長から、資料に基づき説明があった。

委員から、オハイオ大学の教職員の参加について質問があり、高橋高等教育推進

センターから、オハイオ大学からの参加は学生のみであり、教職員は参加しないとの回答があった。

**(3) 令和6年度研究・地域連携本部研究成果発表会の開催について**

亀田研究・地域連携本部長から、資料に基づき説明があった。9月に開催する発表会では、新たなマッチングの場として相談会も開催するとの補足説明があった。

委員から、発表会のオンライン配信の有無について質問があり、藤村研究・地域連携室長から、ライブ配信は検討中であるが、録画の公開は行う予定であるとの回答があった。

**(4) 岩手県立大学外部研究資金等受入状況について**

亀田研究・地域連携本部長から、資料に基づき説明があった。現在、金額の大きい外部資金の獲得は定年退職した教員が中心となっていること、現役の教員も獲得に向けた対応を積極的に行ってほしいとの補足説明があった。

**(5) 滝沢市 IPU イノベーションセンターにおける研究成果等の掲示の実施について**

亀田研究・地域連携本部長から、資料に基づき説明があった。

学長から、今回はイノベーションセンターに本学の取組を知ってもらう取組であるが、本学の教員にもイノベーションセンターの取組を知ってもらえるよう、各学部でイノベーションセンターの取組を展示することも検討してほしいとの発言があった。

**(6) 令和7年度科研費公募にかかる学内説明会の開催及び申請支援の取組について**

亀田研究・地域連携本部長から、資料に基づき説明があった。

**(7) 令和6年度「新入生アンケート」及び「2年次生アンケート」の結果について**

猪股企画本部長から、資料に基づき説明があった。アンケート結果は共有フォルダに格納しているため、各学部や本部等においてPR等に活用してほしいとの補足説明があった。

学長から、1年次から2年次で回答の傾向が変わった項目について、各学部で分析してほしいとの発言があった。

委員から、自由記述の回答に改善のポイントがあるので、負担にならない程度に対応できるとよいとの発言があった。

**(8) ハラスメント防止対策の強化について**

**(9) 令和6年度ハラスメント防止対策研修会の開催について**

米内事務局次長兼総務室長から、2件まとめて資料に基づき説明があった。

委員から、ハラスメントは教員同士や学生同士でも発生するが、学生を預かっているという大学の立場上、教員から学生に対するハラスメントが最も致命的であるということを教員にしっかり伝えたほうがよいとの発言があった。

また、学生のコミュニケーションが変容している中で、叱り方がわからない教員もいることから、叱り方や怒りのコントロールに関する研修を行うことも効果的

であるとの発言があった。

さらに、ハラスメントの未然防止として、相談窓口への相談はハラスメント発見の糸口のひとつであることから、相談者や関係者が特定されない範囲で、相談事例を学内で共有することも有効であるとの発言があった。

これについて、学長から、当事者からは相談しにくい場合もあるため、学生の意見や不満を吸い上げる場をどのように作っていくか、各学部でも検討してほしいとの発言があった。

これに関連し、委員から、学生には逃げ場が必要で、課外活動などのコミュニティはセーフティネットのひとつにもなるが、現在の課外活動の状況はどうかとの質問があった。

これについて、他の委員から、歴史のある大学に比べて、従来から学生のネットワークは弱いが、コロナ禍でさらに弱体化してしまったため、課外活動の充実に向けて立て直しを図っていったほうがよいとの発言があった。

これに対し、三上学生支援本部長から、コロナの5類移行後、学生の活動は徐々に活発になってきているとの発言があった。

これに対し、委員から、各サークルごとの活動だけでなく、大学祭や新入生歓迎会など、サークル同士の横のつながりなどは、学生に主導してもらうために教員側がお膳立てするなどして盛り上げていけるとよいとの発言があった。

委員から、採用時の懲戒処分歴の確認に関し、応募時に使用している履歴書のフォーマットは学部ごとに異なっており、所属する学部の履歴書には懲戒処分歴を記載する欄がないことから、指定のフォーマットがあれば共有してほしいとの発言があった。これについて他の委員から、所属する学部では、応募時の履歴書に学部独自に懲戒処分歴を記載する項目を追加したとの発言があった。これに対し、米内事務局次長兼総務室長から、状況を確認し、おって共有するとの発言があった。

委員から、懲戒処分歴の確認は、(日本版DBSのように)データベースで確認するのではなく、本人の自己申告かとの質問があり、米内事務局次長兼総務室長から、本人の自己申告であるとの回答があった。

これについて、委員から、他大学では応募時の書類で懲戒処分歴を確認し、最終選考前に口頭でも確認するなど、重ねて確認を行うようにしていると紹介があった。

委員から、懲戒処分を受けた教員との関り方に関し、当該教員に対して管理職がどのように指導するかという課題について、担当部局へ検討を依頼していたが、検討状況はいかがかとの発言があった。

これに対し、高橋副学長から、懲戒処分を受けた教員が処分後も引き続き勤務し、教育に従事することを踏まえ、当該教員本人の改善や職務環境の調整等を図っていくための長期的な取組が体系的に整理されたものがあるとよいこと、包括的な内容であるため、引き続き検討を進めるとの発言があった。

委員から、刑法上の犯罪に該当する行為が行われた場合の対応について質問があり、米内事務局次長兼総務室長から、刑法上の犯罪は警察の捜査に委ねるもので

あるが、捜査とは別に学内の処分は本学の規定のとおり実施するものであること、警察の捜査への協力や学内の処分のタイミングはケースバイケースでの対応となるとの回答があった。

(10) 次世代育成支援及び女性活躍推進のための一般事業主行動計画に係る令和5年度実施状況について

米内事務局次長兼総務室長から、資料に基づき説明があった。

**報告事項（資料報告）**

- (1) 令和6年度「岩手県知事講話」の公開（遠隔配信）について
- (2) 令和6年度第1回学務調整会議の開催概要について
- (3) 令和7年度編入学試験（ソフトウェア情報学部）選抜結果について
- (4) 大学院入試（社会福祉学研究科学内推薦入試、ソフトウェア情報学研究科第一次募集）出願状況について
- (5) 岩手県立大学本庄照子奨学金の採用者決定について
- (6) 令和6年度第1回就職支援連絡調整会議の開催結果について
- (7) 国の修学支援新制度に係る機関要件について（報告）
- (8) 教職員メールシステムの移行について
- (9) 令和6年度第1回安否確認システム報告訓練の実施結果について
- (10) 「令和6年度第2回職員衛生委員会」の結果について

**その他**

(1) Google フォームの注意事項について

猪股企画本部長から、机上配付資料に基づき説明があった。

委員から、教育支援室が作成した資料を学部内で共有してよいかとの質問があり、加藤教育支援室長から、共有して差し支えないとの回答があった。

(2) 盛岡さんさ踊りへの本学学生団体の参加について

松崎学生支援室長から、今年度は本学から約150名が参加すること、日程は8月3日（土）、第6集団の2番目で19時35分頃の出発となる見込みであること、また、新たに作成した浴衣が初披露されるとの口頭説明があった。

(3) アイーナキャンパスに掲示されている広報物について

委員から、アイーナキャンパスに掲示されている広報物が古いため、入替えを行ってほしいとの発言があり、加藤教育支援室長から、現場を確認して対応するとの発言があった。

これに対し学長から、宮古短期大学部の情報もパネルに入れて掲示するよう指示があった。